

Abstract

序論 COVID-19 と安全保障

——概観と展望

上野 友也（岐阜大学 准教授）

COVID-19 は、人間の生命と安全にとっての脅威であり、人間の安全保障の観点からすれば安全保障上の脅威でもある。しかし、この脅威は、国家の存続と安全に対する脅威、国際の平和と安全に対する脅威と見なされることにより、安全保障上の脅威であると認識されるに至っている。COVID-19 をめぐって国際政治、国際経済、国際協力の領域において対立と緊張が高まっている。個人の生命と安全に対する脅威に目を転じると、より脆弱な立場にいる女性、子ども、高齢者、障がい者、難民や移民といった人びとに深刻な影響がパンデミックによって引き起こされていることがわかる。このような不安と不満が抵抗運動や反政府運動を引き起こし、武力紛争に発展すれば、人間の生命と安全に対する脅威が、国家の存続と安全に対する脅威でもあり、国際の平和と安全に対する脅威となるリスクとなる。COVID-19 に対抗するための闘争は、安全の配分をめぐる人間同士の闘争へと転換するおそれもある。